

トラックの荷待ちや仮眠・休息時にトラックに電力を供給して
運転席を冷暖房するシステムでこれによりCO₂を削減

トラックアイドリングストップ対策

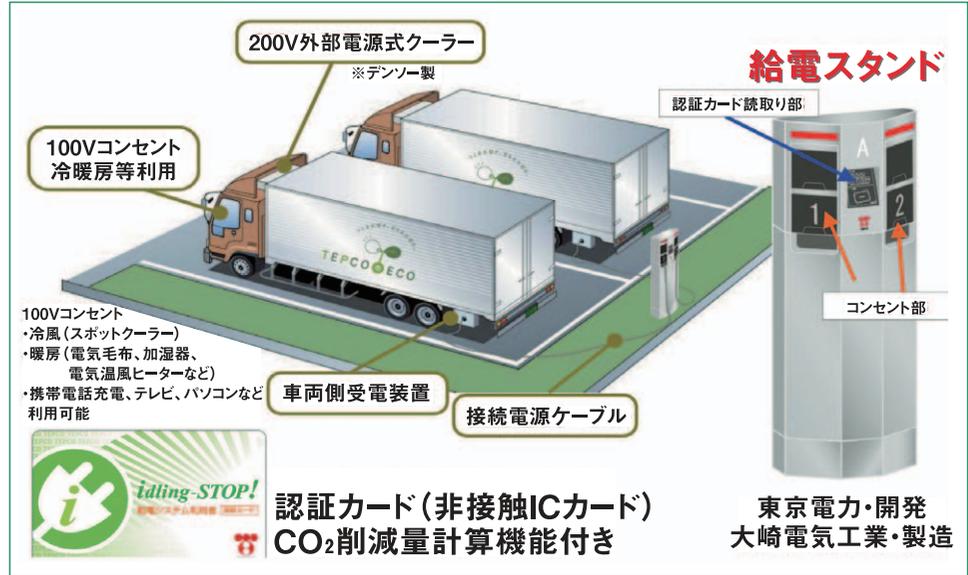
特徴

- 地球環境、地域環境の改善(大型トラック1台の冷暖房利用で年間6トンのCO₂を削減)
- アイドリングストップに関する法令遵守を促進
- トラックドライバーの労働環境改善による安全運転への寄与

概要

(技術の原理・動作等)

- 本システムは外部からの電力で作動する空調装置を新たに車載し、給電スタンドからの電力によって空調をまかなうことで、エンジンを停止しCO₂、燃料消費量の削減が可能となるもの。
- 利用に際して、非接触ICカードによる認証機能により、利用者特定と利用実績を集計してアイドリングにより排出されるCO₂と電力消費により排出されるCO₂を差し引くことでCO₂削減量の定量評価ができる。また利用者が特定されることで利用料金回収が可能となる。



外部電源式アイドリングストップ給電システムの概要

導入実績

- 日本国内のトラックステーション、ガソリンスタンド、民間工場、卸売市場、高速道路のサービスエリア、国際空港トラック待機場など28地点・105基の給電スタンドが整備・導入されている。また、当該スタンドによる対応車両数は、195台同時に利用が可能となっている。(平成21年7月末時点)

効果

- ◎長距離トラック貨物輸送では、荷物の集荷、荷降ろし、運転手の休憩のため4時間以上の連続待機実態あり。運転室内の空調のためアイドリングは必須。当国際空港トラック待機場においても4時間以上の長時間待機実態を認識。
- ◎CO₂削減効果は大型トラック(10t)1台の場合、1時間のアイドリングで約1.56リットルの軽油を消費。本システムを利用することでCO₂発生量を98%削減可能。利用者のコスト削減効果もシステム利用料金をアイドリング時に消費する燃料費の約半額以下の設定により、大きなメリットあり。更にアイドリング中の休憩から、空調を利かせた状態でエンジンを停止し、振動、騒音に悩まされることなく、休息が取れることから安全運転にも寄与。

適用分野
運輸業界

水

省エネ・エネルギー回収

エネルギー
蓄エネ創エネ

新エネルギー

廃棄物処理
再資源化資源

大気

土壌

その他

新関西国際空港株式会社 計画技術部 環境グループ 〒549-8501 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 関西国際空港会社ビル

● TEL / 072-455-2176 ● FAX / 072-455-2050 ● E-Mail / nakaoka@kiac.co.jp ● http://www.kansi-airport.or.jp

※留意事項：本書は環境・エネルギー問題の解決のお役に立てると考えられる事例（技術・製品等）を紹介するものであり、これらについて移転・販売することを保証するものではありません。